

事業実施報告書

平成 23 年度 事業 実施 報告

本年度、国はがん検診推進事業の子宮頸がん検診・乳がん検診に、新規に大腸がん検診を加えるとともに、健康増進法に基づく肝炎ウイルス検診の無料化を実施し、子宮頸がん・乳がん・大腸がん、肝炎ウイルスの知識普及と検診の受診促進を図った。また、がん対策推進基本計画の個別目標である「がん検診受診率 50%以上」の目標達成に向けた「がん検診受診率 50%達成に向けた集中キャンペーン」は 3 年目を迎えた。

このようななかで、当協会は次の事業を展開した。

普及啓発事業では、9 月のがん征圧月間を中心に新聞やテレビ・ラジオ等のマスメディアを活用して各種検診の受診を呼び掛けたほか、全職員参加のもと関係団体からの協力を得て、「みんなで広げよう健康の輪 2011」を開催し、講演会やラジオ生放送を実施し、広く県民に健康意識の高揚や疾病予防の啓発を行った。また、がん検診受診率 50%以上の達成に向けて、がんや生活習慣病に関する講演・講話を実施するなど知識の向上と予防対策の普及に努めた。

検診事業では、3 月 11 日の東日本大震災の影響により検診日程変更を余儀なくされたが、特定健康診査・特定保健指導、人間ドック、全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診や胃がん・大腸がん・子宮がん・乳がん・肺がん検診などの各種検診事業を積極的に推進した。その結果、一部の検診で受診者が減少となったが、がん検診推進事業、健康増進法の事業協力や実施主体と連携した受診勧奨、未受診者対策を積極的に行い、検診事業全体では当初計画を上回ることができた。

また、IC カードハンディ健診システムを全センターで展開し、検診精度の向上と効率化を進めるとともに、特定健康診査では当日結果処理システムにより結果指導の迅速化を図り特定保健指導の推進に努めた。

機器の整備では、山形検診センターにデジタル胃部線装置、デジタルマンモグラフィ装置、デジタル読影システムサーバーを整備するとともに、山形及び南陽検診センターに腹部超音波診断装置を、山形及び米沢検診センターに心電計を、庄内検診センターに骨密度測定装置をそれぞれ整備し機器の充実を図った。

事業運営面では、公益法人制度改革による新制度への移行に関し、平成 24 年 3 月 19 日に山形県知事から公益財団法人の認定書交付を受け、「公益財団法人やまがた健康推進機構」として 4 月 1 日付で新たなスタートを切るべく登記等の手続きを進めた。また、厚生労働省科学研究費補助金による第 3 次対がん総合戦略研究事業「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」は最終年度の事業を実施した。

普及啓発活動

1. 広報教育活動の推進

(1) 会議・研修会の開催

結核・生活習慣病に関する情報の提供、保健事業や健康管理についての知識の向上と予防対策の普及に努めた。

- ・保健所、市町村健康管理担当者会議 (2回) 約30名
- ・事業所の健康管理担当者研修会 (3回) 約160名

(2) マスメディアを活用した広報活動の推進

結核・生活習慣病に対する予防意識の高揚と受診勧奨に努めた。

- ・テレビスポット
 - ・9月がん征圧月間、結核予防週間 15秒 130回(4社)
 - ・3月受診勧奨 15秒 75回(4社)
- ・ラジオスポット
 - ・9月がん征圧月間、結核予防週間 20秒 44回(2社)
- ・新聞広報
 - ・9月がん征圧月間、結核予防週間 1回(4社)
 - ・10月がん検診推進月間 1回(1社)

(3) 関係機関への健康情報誌等の配布

パンフレットの作成、既製パンフレット等を購入し、健康まつり、健康催事、事業所・学校の健康教育等へ無料配付を行った。

- ・協会広報誌 しあわせ(年2回) 各5,000部
- ・複十字誌 (年6回) 210部 (結核予防会発行)
- ・対がん協会報(毎月) 500部 (日本対がん協会発行)
- ・ " (増刊号) 330部 (")
- ・がん征圧月間ポスター(2種) 各1,130部 (日本対がん協会製作)
- ・結核予防週間ポスター 980部 (結核予防会製作)

(4) 広報教育媒体の整備・貸し出し・無料配布

広報教育媒体の整備を行い、健康催事、事業所・学校の健康教育等へ無料貸出しを行い、疾病予防の啓発に努めた。

県内の113中学校へ「がん教育DVD」の無料配付を行い、がんの知識や検診の大切さの啓発を図った。

(5) 街頭キャンペーンによる広報活動

がん征圧月間・結核予防週間中の9月23日に山形市内において、全職員参加のもと、山婦協会員や山形まめの会員からも協力を得て、普及啓発イベント「みんなで広げよう健康の輪 2011」を開催し、ラジオ公開生放送や街頭キャンペーン・健康啓発セミナー等を実施、健康意識の向上や疾病予防の啓発に努めた。

2. 大会・イベント等の開催・参加

(1) 開催(共催)

- ・やまがたピンクリボンフェスタ 2011 (10月2日 山形市)

(2) 参加

- ・平成23年度がん征圧全国大会 (9月1日・2日 鹿児島県)
- ・第63回結核予防全国大会 (2月13日・14日 大阪府)

3. 組織活動への支援・協賛

(1) 山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会

- ・幹部研修会・小ブロック研修会等の開催支援 約300名

(2) 山形まめの会

- ・術後者の健康管理の勉強会(5支部)等の開催支援 約140名

(3) 置賜地区健康管理推進連絡協議会

- ・事業所における健康管理研修会等の開催支援 27社

4. 健康情報パンフレットの配布

結核予防会の発行図書や山形県喫煙問題研究会編集禁煙教育パンフレット等を、県内外の自治体・学校・事業所等へ広く無償配付した。

5. 募金活動の推進

募金の拡大を図り、がん征圧・生活習慣病予防の普及啓発を積極的に行うなど、募金を広く還元できるよう努めた。

- 募金額 4,000,250円

検診事業

1. 検診・検査

(1) 医療保険者、自治体及び事業所等からの委託を受けて各種検診・検査を実施した。

(単位:人)

項目	計画	実績	増減	総人員			参考		
				計画	実績	比較	(平成24年5月1日現在の数)		
特定健康診査	53,300	51,257	2,043	53,300	51,257	2,043			
特定保健指導	2,410	2,415	5	2,410	2,415	5			
生活機能評価	5,740	5,530	210	5,740	5,530	210			
胃がん検診	57,660	55,476	2,184	105,555	104,164	1,391	発見がん患者数(疑含む) 87人 がん発見率 0.08%		
大腸がん検診	64,125	63,890	235	116,065	117,572	1,507	発見がん患者数(疑含む) 91人 がん発見率 0.08%		
子宮がん検診	19,900	19,501	399	39,115	38,266	849	発見がん患者数(疑含む) 22人 がん発見率 0.06%		
乳がん検診	併用	16,460	17,282	822	35,060	34,999	61	発見がん患者数(疑含む) 67人 がん発見率 0.18%	
	視触診	1,655	1,494	161	1,750	1,601	149		
呼吸器検診	肺がん検診	X線	46,645	44,732	1,913	78,435	77,017	1,418	発見がん患者数(疑含む) 51人 がん発見率 0.07%
		喀痰	3,000	2,741	259	4,000	3,707	293	
結核検診	結核検診		43,420	41,772	1,648	124,625	123,422	1,203	
	精検	直接	50	40	10	50	40	10	肺結核患者数 3人 発見率 0.002%
		結核菌検査	10	7	3	10	7	3	発見がん患者数(疑含む) 24人 がん発見率 0.02%
人間ドック	32,805	33,282	477	32,805	33,282	477			
全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診	21,630	22,596	966	21,630	22,596	966			
腹部超音波検査	30,295	30,944	649	30,920	31,686	766	発見がん患者数(疑含む) 9人 がん発見率 0.03% その他疾患数 755人 発見疾患率 2.38%		
一般検査	定期健康診断	74,990	74,948	42	74,990	74,948	42		
	その他(延件)	453,160	458,174	5,014	453,160	458,174	5,014		
学校検診	50,740	51,016	276	50,740	51,016	276			
細胞診検査	10,700	10,680	20	10,700	10,680	20	(母式10,304件から5の子宮がん) 発見がん患者数(疑含む) 11人 がん発見率 0.11%		
前立腺がん検診	19,155	20,732	1,577	19,155	20,732	1,577	発見がん患者数(疑含む) 115人 がん発見率 0.55%		
骨密度測定	16,185	20,423	4,238	16,185	20,423	4,238			
肝炎ウイルス検診	2,810	5,894	3,084	2,810	5,894	3,084			

(注)総人員:単独検診に人間ドック、全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診に含まれる検診項目を加算。

- 受診者を増やす方策の一つとして、これまで行ってきた申し込んでも受けなかった方等への勧奨はもとより、予約制で行っている人間ドックの受診予定者に対して、実施主体からの了解のもと、受診日の数日前に電話にて日程確認と諸連絡を行い、受診者確保に努めるとともに、全体的な受診者増の底上げを図った。
- 平成22年度から山形検診センターへ先行導入したICカードハンディ健診システムと当日結果処理システムを全検診センターに導入し、検診事務処理の効率化と検診の精度向上を図った。
- 平成23年度より、がん検診推進事業に従来の子宮がん検診、乳がん検診の他に大腸がん検診が追加され、前年度に引き続き市町村の事業に協力した。(子宮がん検診 1,587人、乳がん検診 4,775人、大腸がん検診 4,282人)
- 厚生労働省科学研究費補助金による第3次対がん総合戦略研究事業「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」の5年目の事業に協力した。(超音波検査実施群:341人 超音波検査非実施群:138人)
- 文部科学省科学研究費補助金による「山形分子疫学コホート研究」の3年目の事業に協力した。(3市 1,731人 同意率70%)

2. 事後管理

- 各実施主体の担当者等との連携を密にし、要精密検査対象者の精検受診勧奨に努めた。
- 事業所から委託を受け、巡回健康相談を86人に対し実施した。
また、検診後の事後指導や健康講話を1,912人に対し実施した。

3. 精度管理

- 精度の高い検診、検査を提供するため、専門医師と専門職員で構成された7つの検(健)診委員会を開催し、検査項目や検査方法等について協議、検討を行った。(循環器・消化器・呼吸器・子宮がん・乳がん・超音波・人間ドック)
- 日本医師会及び日本臨床検査技師会へ精度管理調査を依頼し、良好な評価を得た。